

ににんさんきやく 二人三脚

トーマスと サラは、なかなか 仲良しになれません。何かにつけ、いつも 意見が合わないです。けれども、おかしなことが ありました。この二人は、他の 人ならだれとでも、友達になれたのです。二人には、全く 同じ 友達さえ いました。

それなのに、トーマスと サラは、しゃべり合って 口げんかをしていました。ある時二人は、パーティーの ゲームで、チームになりました。最初は、ちっとも うまくいきませんでした。

「トーマスったら！」 サラが いらいらして 声を 上げました。私が こっちに行こうとすると、あなたは 反対の方に行きたがるのね。だから 私達、転んじゃうのよ。」

「じゃあ、ぼくの 行きたい方は、どうなっちゃうんだよ？」 と、トーマスが 言いました。トーマスと サラは、大きな ズボンの 片足に 自分達の 片足を 入れているのですが、



一人が 動こうと するたびに、もう一人が、がんこにも 反対方向に 行こうと するのでした。同じ ズボンを はいてから、二人は 一歩も 進めない 状態でした。たがいの 足や うでの上に 転んで、腹を 立てるばかりでした。

「あなたが 転ばせたのよ！」 サラが 大声を 上げました。 「こんなのは、全然 うまく いかないよ！」 トーマスも 大声で 言いました。 「私の せいじゃ ないわ！」 と、サラ。

すると その時、友達の マットと カレンが 通りがかりました。彼らも、同じ ズボンの片足に 自分達の 片足を 入れて、同じ ゲームを しています。けれども、マットとカレンは、何の 問題も なく 歩いているでは ありませんか。

「一体、どうやって いるのかしら？ 私達は 転んではかり いるのに。」 と、サラが 言いました。



トマスは、マットとカレンに声をかけていました。「君達は、どうやってそんなにうまくやっているんだい？ ぼく達は、進もうとするたびに転んでばかりなんだ！」

マットが答みました。「わりと簡単だよ。おたがい、相手に合わせるようにするんだ。まずは、カレンの行きたい方に行く。その次は、ぼくの行きたい方に行くんだ。」

「サラ、ぼく達の問題が何か、分かった気がするよ。」トマスが言いました。
「ぼく達は二人とも、ちがう方にはばかり行こうとするから、いつもいつも転んじゃうんだよ。」

サラが立ち上がって言いました。「じゃあ、私はあなたの行きたい方にばかりついて行かなくちゃいけないってことなの？」

トマスが言いました。「ぼく達、今はちつとも進めない状態だろ。どうにかしないと。どこに行くか、いっしょに決めようよ。そして、交代でリードするんだ。サラの行く方にぼくが行ったら、その次は、ぼくの行く方にサラが来たらいいんだ。そしたらきっと、目的地に着けるよ。」

「じゃあ・・・やってみましょうか・・・。」

トマスはサラにうでを回し、サラもトマスにうでを回しました。最初はちょっとぎくしゃくしていたけれど、だんだんなれてきて、まもなく二人は肩を組んで、いっしょに決めた目的地に楽しそうに進んだのでした。

